

2018年10月22日(土) 英語稽古 冒頭部分にて

- 特殊稽古の超鑑賞経験 1回目の日。
- お話させていたたいたこと。(木曜日に話せなかつたこと) ①②

① T.A.さん 10月第2週 土曜日 午前 10:25 より 銀座書齋 入居ビル9階段を1階から6階まで 清掃する当番

→ 屋上5階段まで

木曜日に思ったことは、階段自体がものすごく綺麗になっていたこと。5階につくと、飾られているものが刷新されており、非常にあきりした空気、窓にカーテンがかけられ、より神聖な雰囲気。お手紙の積み方、置き方に愛情が宿っているようにも感じられ、同じお手紙でも、改めて読ませていたと、又違った印象を持った。

このすべてはお話できなかったが、実際、T.A.さんは、丁寧に清掃して下さったとのこと。

翌日に、世界レベルへの道において先生が公開されたように、先生は再度、置いてある物を移動させ、清掃もされた。

理由は... 2階にテナントが入るため、空調機が屋上にある。業者が出入りするのだが、ゴミが出る... 出たゴミも綺麗にしてくれればいいのに... そうでなかつたため、そのままにされてしまったため、再度、先生が掃除したとのことであった。慣れているが、と仰っていたが、綺麗なところを汚してしまつたら元に戻すのはその人の責任...

その流れで、手前外の階段・踊り場の置き物を戻し、銀座書齋において、受講生、弟子が座ると、背中の方に置かれていたお手紙をたくさんおいたものを、2つ、外へ出された、とのことだった。

そこで勉強している人の命を、  
勉強の成果をお互いに知り、共有し、  
お互いが繋がっていく。

私の決意表明書は、人目に一番つくところに置いてくださった。

② K.H.さんが、お花と M.H.さんへの出産祝いを贈ったこと。

きれいなお花を、世界レベルの道からたのませていただき、  
M.H.さんへの贈り物から、K.H.さんの優しい心を本当に  
感じた。同時に、自分の心のけがれを感じた。

木曜日にそのお花を直にたのませていただき、心に穏やかさを  
つけた。

〈先生ヨリ〉

できるようで、できない。K.H.さんは他人のことに  
気が付く。誰よりも先に気が付く人。

K.H.さんは、ついこの間まで叱られていたのを知っていたか？  
(基礎を洗い直していることまでしか知らなかった)

ついこの間まで、どん底だった (K.H.さんが) のだろう。

先生は、彼女の真実を教えてあげた、と仰る。

結婚しているので、旦那さん、親、親戚、長くK.H.さんを  
知っても、K.H.さんの真実を教えてくれる人はいない。

かき氷を食べて、写真をレッスン日記に紹介した直後に  
基礎の勉強をしながら、先生の方で真実を指導した。

人間は面白いもので、最初は驚いても、人間は、「そんなんだ...」と  
思うと、あとでジーンと響いてくる。ジワーとくる。

「言われたことが真実だとジワリジワリくる。ジーンと。」

きつかりこそ、ジーンとくる。それが本当だから。

それが、先生の勘違いじゃないかな？と受け流すか、たが。

K.H.さんにとっては、K.H.さんの人生にとっては、心産、真実だった。  
ので、どん底まで落ちた。

精神的に大変だった。

K.H.さんにとって、言われたことがあまりにも大変。受けとめることが大変...

そのときに、お花を持ってきたそうだった！

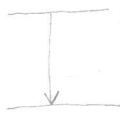
「このままじゃいけない」と思ったから」と先生。

先生に言われたことが本当だったから、這い上がって... 立ち上がって... きた。  
一回、底まで落ちて このあたりにおいて そして、はい上がってきた！



節目と必要性で行った、と仰っていた。

彼女がしてきたことを洗い直して、他の人には言われない真実を、先生に言われて、ある意味、ショックだった。



この位置で、"このままじゃいけない"とあって、"立ち上がろう、"  
"勇気を持って立ち上がろう"とあって、やってきた。

お祝い、出産のお祝いとは別のことだ"と、考えたところが、  
K.H.さんの良い所だ"と先生。

これから強くなる。いい勉強ができる、と仰っていた。

おっと、自分の根底にあるもの、現実を見ないでいくと、  
いつか、落ちる。 → とう進んでいったとき

根幹のところを見ている。やりながら、進みながら、洗い直していくことが重要。

さあがに先生ご自身、きつかった。色々言ったのも、弱ってしまうと...

あんなに弱ってしまうと、そこのまじ言う必要があったか、と先生も弱った。

元気になってくれたので、先生も元気になった！

前に進んでもらうために、言わなくてもいいことを言っている。

それをあんなに弱ってしまうと、こちらもキツかった、と先生もきつそうだった…。

お花も、長く持たせたので、お水を何回も取り替える。

ふつうの人は1日1回だけど、先生は、何回も替える。

そして、なるべく、お花も見てあげた方がいいので、みてあげる。

弟子のための新しいウェブサイトを作り、公開したころがK.H.さんのどん底の時期。今まで10年近く教えてきているが、今までそこのまじ弱ったことは無かった。

結構大事なことを言ったけど、言われて目が覚めた。

本当のことだから。

言ったことの一つは、音楽のこと。

ええ、謙虚な人だけど、音楽のことを、けど良かったと思う、真実のことだから。

言う方が辛い。100人中100人、言わなくていいことを言わない。

ひょつ間違えると、恨まれたり、心の狭い人は、悪く受け取る人はいる。だから言うのは、言われるほうより、言うほうが大変。

でも、特に弟子は、真実の道を教える、真理を賦与するのだから、真実をK.H.さんに賦与した。

そのことについては、先生は「地獄犬でした。」

弱ってしまったから… 元気になったからよかったが、弱ってしまう、というのは、  
“又、何か言われるのでは”と思うのか、一時期、怖くなってしまった。

10年で一回も無かった。必ず、言ったことを わかりました。と言って 行っていた人  
なんだけど、 そうではなかった。

先生も、「 つかった 」。

弟子は 5人 いるが、 叱るのは 憎くて 叱る のは 無い。  
それしかない。

一般社会でも わかる。 どうでもいい人のことは、 放っておく。

( 先生は非常に 苦しくなっていた )